

いちにち
一日お母さんのう
能美にな

わたしはお母さんと二人家ぞくだ。いつもお母さんが家のことをしてくれる。ある休みの日、わたしは「お母さん」のやくをかわってみることにした。「一日お母さん」だ。

けっ行の日をきめたら、まずはじゅんび。お母さんの行どうをじっくりかんさつする。ふむふむ、おふろは前の日のよるにあらうんだな。あらかじめコツを聞いておいたものもある。お母さんがかかさないのはトイレそうじだ。つわりがひどかった時トイレで長い長い時間をすごし、その後ぶじにわたしが生まれたので、おれいの気もちでそうじをしているらしい。そうじはたなの上から下へ。もちろんゆかやべんきのうらもわすれずに。りょうりは、おばあちゃんに教えてもらってけいかくをたてた。あとは、けっ行の日までお母さんのよこでいろいろと見学したり、道ぐのばしよをおぼえたりした。

さあ、いよいよ「一日お母さん」の日。ルールは二つ。りょうりする時はかならず声をかけること。一人で火をつかわないこと。

まずはねているお母さんをおこす。今日はわたしがお母さん。名前でよんであげるんだ。「ななちゃんおきて、朝だよ」。

ばんやりとおきてきたお母さんをせ中にかんじながら、わたしは朝ごはんに目玉やきをつくる。できあがったら、食べる前にせんとくきのスイッチを入れに行く。ごはんを二人で食べおわったら、ちようどせんたくきからおわりの合図がきこえた。ペランダでしわをのびしながらきれいにほす。そうじきかけにトイレそうじ。うん、なかなか上手にうごけている。すこし時間があったので、パソコンでしごとをしているお母さんに「ななちゃん、ちよつと休けい、おちゃんにしましよ」と声をかけ、こうちやを入れた。

いよいよ本日のメイン、ばんごはん。メニューはかわらそば。お肉、それからうすやきたまご。さいごにつくったうすやきたまごはあつくてさわれず、さめるまでじつとまつというもつたいない時間をすごしてしまった。そばをほぐす水をよいいするのもわすれてしまい、水をとりに行っている間に、なんと、そばがこげてしまった。さいごのさいごにさんさんだ。そういうえば、お母さんは先にたまごをつくって、さましている間にお肉をいためたりそばをほぐしたりしていたな。一つ一つはできていても、じゅんばんをまちがえると空き時間がふえたり、たりなかつたりするんだな。おふろもちゃんと前の日のよるにあらっていたつけ。まるで時間のパズルだ。

「一日お母さん」はあつというまだった。じゅんびの時間のほうが長かった。「お母さん」は一日だけではできない。つながった毎日の時間をうまく組み合わせてなりたっている。

そう、お母さんは一日にしてならず。

お母さん、いつもありがとう。

評価のポイント

母に対する素直な気持ちを読んだ人の心にスツと届く、すごく明るくて素敵な作品。